

標津町防犯ボランティア組織レッドシャドー（北海道）

活動地域の紹介

皆さん、こんにちは。私は、標津町防犯ボランティア組織レッドシャドーで隊長を務めております、青木と申します。隣にいるのが副隊長の吉田と申します。

私たちは北海道の東の果て、国境に近い町、標津町から参りました。24 キロ先に国後島が見える町です。こんな町なのですが、実は私たちは普段は標津町役場の職員、私は建設水道課で水道施設の管理をしております。副隊長の吉田は町の財政のほうを管理しております。

うちの町の標津町は、人口が 5,800 人ほどしかない非常に小さな町です。こんな町で、何でこんな組織ができたのかなと。今日、前半の3団体の皆様の講演を聞いていると、ちょっとうちの組織は違うなと心の中で思っていたのですが、前もって最初のうちに言っておかないと駄目かなと。そんな感じさえします。国境に近い町ということもありまして、意識がやっぱり僕たちは違うのかな、そんなことを感じながらも講演をさせていただきたいと思えます。いきなり最初から「ありがとうレッドシャドー」ということで、是非こう言われる組織になりたいなという思いで講演させていただきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。



団体の概要



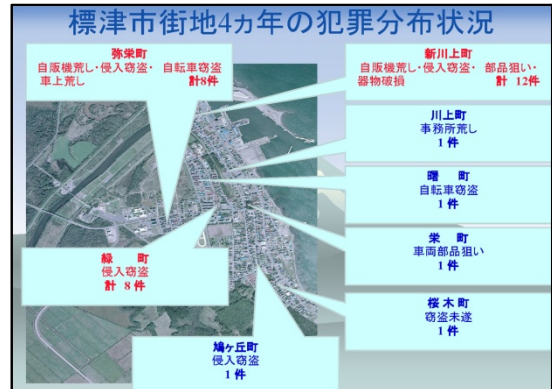
なぜ標津町にこんな独自の防犯組織ができたのだろうか。実は平成 14 年の秋に、町内で3件の親父狩りという、金品強奪、暴行事件が発生しました。うち1名は全治2週間、実はうちの役場のOBでした。泥酔状態で襲われたようです。そんな事件が発生いたしました。この事件以後、うちの町の町民は夜間に飲みに歩くのも大変だなということで、余り出て歩かなくなった時期です。最初はたった独りの平和維持活動から始まった。何しろ国境の町ということで、こんな意識が私たちにはあるのかなと。

これを見た標津町役場の若手の5名が、実は早速、私に協力して平成 14 年 12 月8日に6名の自主防犯組織として、標津町防犯ボランティア組織レッドシャドーが結成されました。

活動内容

平成 17 年3月に、北海道警察中標津警察署長より青色回転灯を設置した、自主防犯パトロール隊として従事者証の交付を受けまして、最初は8台で自主防犯パトロール隊の活動を開始いたしました。当時、やはり最初に着手したのは町の防犯マップ、町の状況はどうなのだろうかと。町の防犯マップの作成のメリットは、地区別の犯罪の分析や予防対策、目に見える犯罪の分布状況を確認すること。それと、町内会別の犯罪の発生状況を徹底的に分析して、危険箇所を分析し、今後どのような予防対策を確立していけばいいのかということ、町内会全体で共通認識し、地域が一体化した防犯体制の確立を目指してまいりました。

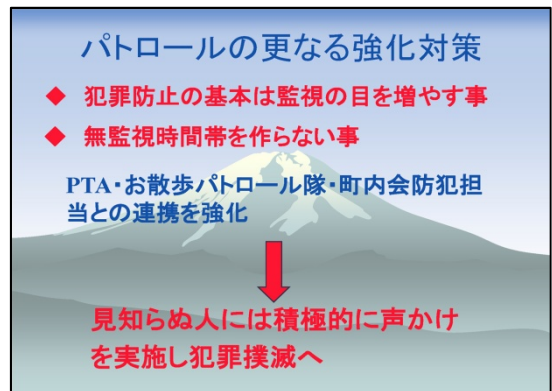
市街地の4カ年の犯罪状況を分析いたしますと、実は町の中で非常にごく一部の場所だけが犯罪が多い傾向が見られました。これはやはり町の中で非常に暗がりが多かったり、倉庫や廃墟施設が多い、そういった施設が近い所であったり、逃走ルートというか、方向的に逃げやすいルートに近い所であったり、いろいろな複数の条件があるのではないかなと思います。そういった部分がある。こういったことを地域全体で認識しながら、どの部分で非常に犯罪が発生し得るのかということ、町内会全体で検討していただく資料として作ったものです。



また、子どもたちの下校時刻、やはり暗くなる時間帯で、うちの町の中ではこういった所が子どもにとって危険な場所だろうかとということ、街灯の少ない地域をバス停まで歩く場所であったり、旧 JR 跡地、これはうちの町も昔はJRがあったのですが、今は旧 JR 跡地が子どもたちには通路に使われている。ところが両サイドが防風林や保安林帯で囲まれているものから、何かあった場合に非常に目に付きにくい場所でした。そういった部分を分析いたしまして、パトロールの対象として意識しながら警戒をするように進めてまいりました。

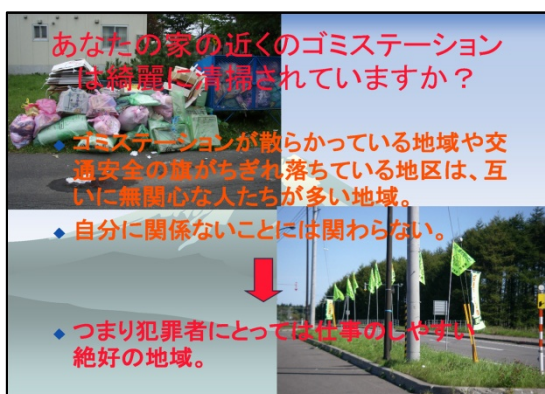


このマップの状況から分析いたしまして、児童の安全確保、どの部分を重点的に警戒すればいいか、夜間はこういった部分を警戒すればいいか、徒歩パトロール隊はどちらのほうを警戒すればいいか。空き地、空き倉庫、そういった部分はこういった形で監視体制を強化していけばいいか、状況に合ったパトロールの実施を検討してまいりました。



パトロールの更なる強化対策として、犯罪防止の基本は、やはり町全体で監視の目を増やすことであり、無監視時間帯をとにかく作らないこと。私も、地

域のPTAの役員の皆様方や各父兄の皆様方の協力や老人クラブのメンバーで「お散歩パトロール隊」というのを結成していただきました。このメンバーと、さらに町内会の各地区の防犯担当の皆様方と連携を図りながら町全体の警戒体制を強め、そして見知らぬ人には積極的に声を掛ける。誰でも犯罪者と疑うことは嫌なことなのですが、見知らぬ人には特に声を掛けるようにしております。これは以前、警察の方とお話した中で、犯罪者の心理として、声を掛けられるということは「ああ、顔を見られた。」と思うらしいです。そういったことを考えながら、とにかく声を掛け合う。朝晩の声掛け運動、挨拶運動がそういったきっかけになるのではないかなと思っております。

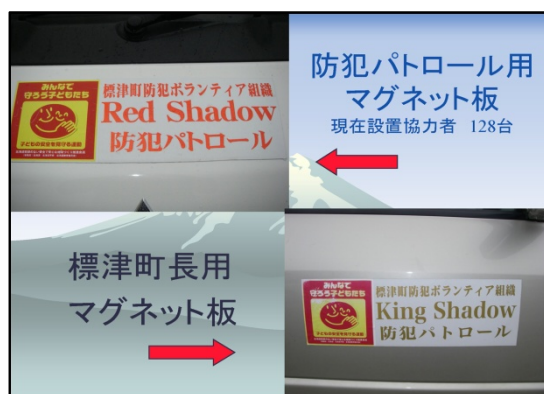


私たちの家の近くというのはどんな状況でしょうか。うちの町のような田舎町ですとゴミステーションに結構簡単なごみの入れ物がありまして、そこにゴミを出すというような仕組みです。ゴミステーションの周りにはどんな状態でしょうか。散らかっている地域や駐車場や交差点に立っている交通安全の旗はボロボロになっていないでしょうか。あるいは折れて倒れてはいませんか。実は、自分に関係のないという旗が多い所は、つまり犯罪者にとっては非常に仕事のしやすい所と見えるのではないかなと。日頃か

らこういった所をきれいに地域全体で保つことが、非常に大切ではないかなということを提案してまいりました。

防犯意識の高い町であることをアピールするために、防犯抑止力の向上ということで、町内の商店、食堂、ガソリンスタンド、あるいは建設会社の営業車両などにも協力していただきまして、私たちの作った防犯パトロールのマグネット板をどんどん設置していただきました。

地元の人であれば誰でも構わないので貼ってくださいということで、128台に何とか貼っていただいております。また、私どもの町長の車に専用のKing Shadowという名前のマグネット板を貼りまして、大変喜んで走ってくれています。ちなみに、元町長の車にはRed Emperorというマグネット板を貼っております、非常に喜んで走っていただいております。



そのほかに、防犯意識の向上のために、私どものメンバーに同じ役場の消防署の職員なのですが、少林寺拳法の師範がおりまして、この師範を中心に地域の防犯講演や護身術講習会を開催しております。高校生に護身術講習会をやってみたところ、もう次の日から学校で友達を後ろにねじ伏せたり、結構そういう部分があるので、護身術講習会は高校生には向かないかなという感じがしました。

平成21年には、北海道知事より「北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり賞」を受賞しております。

最初はたった一人の活動から10年経ちました。現在、



パトロールのメンバーが約 50 人、青色回転灯装備車の台数は 42 台。北海道で第5位だそうです。北海道の第1位は、なんと64台。北海道はやっぱりまだ1団体当たりの青色回転灯の設置台数は少ないですね。北海道 No.1を目指してレッドシャドーも頑張りたいと思っております。

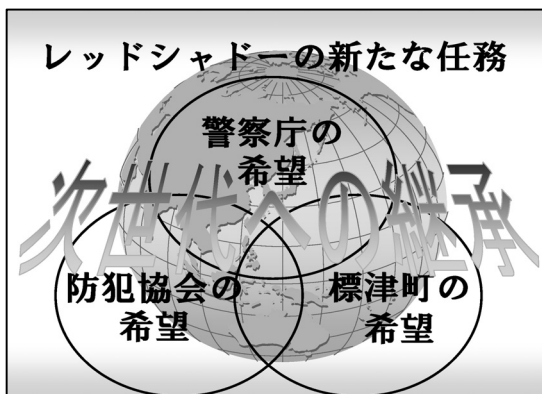
現在、日本の国内では多数の自主防犯組織が結成されまして、地域の安全を守るために活動に取り組まれております。構成員の中では、高齢化、固定化が活動の活性化にとって問題となっているようです。今日も結構、年配の方が一緒に来ている中で、大変申し訳ないのですが、警察庁では、現役世代の参加促進を図る環境づくり支援事業を開始いたしました。

この事業に合わせて北海道内から選ばれましたのが、現役世代でパトロールをやっている私たちだったのです。その名は仮面の忍者「赤影」です。赤影と言って分かる年代の方はいらっしゃるでしょうか。私たち防犯組織レッドシャドーです。平成 23 年9月 30 日に現役世代の団体として認められまして、レッドシャドーは反射ベストの胸に刻まれた警察庁指定団体という文字に恥じることはないように、新たな任務に向かうのであります。

次世代への継承

さて、レッドシャドーの新たな任務とは何でしょうか。警察庁の希望、野望と言ったほうがいい。防犯協会の希望とは何でしょうか、そして標津町の希望とは何でしょうか、これが、会場の皆様にも共通して言えるのが、次世代への継承。やはり次の世代に子どもたちにどうやって、その大切さを教えていくかというのが非常に大切な役割ではないかと思っております。

レッドシャドーのポリシーとは何でしょうか。ちょっと恥ずかしいことをいっぱい書いています。すみません。揺るぎ無き正義感、標津町への忠誠心、誰にも負けない愛国心、世界平和への願い、国境が近いと我々役場職員までこんなふうになってくるのですね。



-
- レッドシャドーのポリシー
- 揺るぎ無き正義感
 - 標津町への忠誠心
 - 誰にも負けない愛国心
 - 世界平和への願い

レッドシャドーのポリシーを、どのようにして次世代へ継承していけばいいのでしょうか。その答えが赤影にあるのではないのでしょうか。私たちは小さい頃によく見ました。幼き頃に描いた夢、ヒーローアニメから学んだ正義の心を皆さんは忘れていませんか。なぜ、この頃はヒーローに憧れたのでしょうか。やはりヒーローアニメの中には、心に響く言葉があるのではないのでしょうか。「もって生まれた不死身の体、キャシャーンがやらねば誰がやる」「赤い仮面は謎の人、どんな顔だか知らないが、……正義の忍者だ赤影だ」「地球を救う使命を帯びて戦う男、燃えるロマン、誰かがこれをやらねばならぬ」といった心に響く言葉

があったでありますよ。

次世代継承のターゲットは、やはり子どもたちです。現代の子どもたちの心に響く言葉という、どんな言葉があるのでしょうか。そんなものをモチーフにしたポスターなども作ったらどうでしょうか。レッドシャドーが子どもたちの憧れ、ヒーローにならなければならないのでしょう。子どもたちの中に、レッドシャドーキッズを募集して、ホームページでそれをPRしていきたいと今、考えているところです。

次世代継承のターゲットは子供達

- 現代の子供達の「心に響く言葉」を募集しレッドシャドーのポスターを作製
- レッドシャドーが子供達の憧れの「ヒーロー」に
- 子供達のなかからレッドシャドーキッズを募集
- レッドシャドーHPの開設

おわりに



我々の任務は終わらない。我々の活動はついに海へ。新たな脅威、外国の不審船対策。国境が近いと、こんなものが実際に流れてくるのです。地元では、就職先を間違えたのではとよく言われます。

先日は、陸上自衛隊に国防に関する講演を頼まれました。また、北海道防犯協会連合会理事長と北海道警察本部長から防犯功労賞もいただいております。こんなことをやっている私ではございますが、実は地元では町の最大イベント「水キラリ」の儀式委員長を務め、神社の神輿

会の会長などもやっております、消防団もやっております。栄町町内会の副会長もやっております。一応、優しい田舎役場の職員で、地元では通っております。

我々、レッドシャドーというのは赤い影。私たちの活動時間は本当に遅い時間です。夜中の 22 時から 3 時。春は若葉マークの暴走行為をする若者たちに語り掛け、夏は祭り会場で酔っぱらいをなだめ、秋は文化祭の準備で遅くなった学生さんたちの安全を確保し、冬は歳末警戒のパトロールで飲酒運転の撲滅を呼び掛けてまいりました。深夜のパトロールを専門とする自主防犯パトロール隊です。

私たちは、こんな組織ではございますが、これからも標津町民の安全安心を守るため、そしてこの町の子どもたちの未来のために全力を尽くしてまいりますので、今後とも一つよろしく願い申し上げます。

質疑応答

- 質問 町役場にお勤めとのことですが、予算は役所から出ているのですか。
- 回答 予算は、当然、役所からは出ておりません。完全にボランティアでやっております。ただ後援会というのがありまして、強力なバックアップという形で、漁協の組合長であったり、元町長であったり、そういった人たちから後援会というものに協力をいただきながら活動しております。現在、隊員は 21 歳以上で構成しており、私は 47 歳です。まだ現役で働いておりますが、予算というのは基本的にありません。ですから、車でパトロールに出るのも自費です。燃料代は覚悟をしてやっていただいておりますが、私ど

も仲間を増やしていくために、あるいは次の世代を育てていくために、交流の場、やはり一杯飲む、飯を食わせる、そんなことも必要になってきます。私たちは隊長、副隊長を幹部と言っておりますが、我々でお金を出して若い連中にも労をねぎらい、飯を食わせながら、飲ませながら、そんな活動をやっているのが実情です。

●質問 仕事とパトロール活動の両立はどうかしていますか。

○回答 私は公務員ということで、勤務時間中はパトロールができません。私たちができるのは、朝の通学時間帯の子どもの安全確保のためのパトロール。勤務時間に入りますと、当然パトロールはできません。しかし、私たちの活動に対して、元町長や元町議会議員の皆様が協力してもらえる方が実は増えてきており、日中はそのメンバーで、私たち現役世代がパトロールできない部分を、特に小学校低学年が帰宅時間帯に入る午後から夕方の時間帯をパトロールしていただいている。というのが実情です。

●質問 お仲間を増やす声掛けはどんなふうにおられるのですか。

○回答 役所全体の雰囲気というか。やはり田舎役場の職員は、地域にいろんな形で関わらなければ駄目だという意識なのです。特に、小さい町というのは。そのために、もう町内会の役員だったり、行事だったり、そういったものに地域の役場職員は率先的に関わらなければならない。こういう意識が小さい町だから多いのでしょうか。私もいろんなイベント、行事に参加する機会が多く、いろんな役員をやっている関係から、そういった席で元気の良さそうな人に声を掛けて引っ張ってきているというのが実情です。

●質問 大変身銭も切っておられるという話でしたが、活動をしてみて、もう10年余り経つようですが、楽しみや励みというか、その辺りはどうですか。

○回答 活動を始めて、今年の12月で10年目に入ります。実は、昨年から私の娘や息子、ちょうど22、24ぐらいなわけですが、その同級生がメンバーに入ってくるという傾向にありまして、考えますと、活動を始めた頃は私の子どものことを警戒しながら、自分の子どものためにという部分が多くありました。それを見て、ああ誰々君のお父さんといわれていました。子どもたちにしてみればそんな感覚なものでしょう。今、やっとメンバーとしてその年齢の子どもたちに入ってきています。大変うれしいです。また、メンバーには女性も10名います。22歳から37～38歳まで。中には主婦が二人もいます。やはりだんだんとみんなの意識が高まってきているのかなと。

ですが、元々、うちの町は犯罪が多いわけではないのですけどね。みんなによく言われるのですが、そんなに力を入れてやっているなら、お前の町はよほど犯罪が多いのかと。ほとんど犯罪がないのが実情なのです。要は、中標津町さん、別海町さん、周りの大きな町の犯罪がこちらまで流れ込まないようにという位置付けで、それを抑止していく組織でありたいという考え方でおります。今はもう、そういった若いメンバーが入ってきているということで非常にうれしく思っています。